

“ファミリー”という名のおりの場

成長を見守る 喜びを感じる

石岡市八郷地区で生まれ育った絵幡さん。「子どもの頃は外遊びが大好きで、膝はいつも傷だらけでした」と笑います。父親がマラソンをしていた影響で、一緒に大会に出ることも多かったそうです。高校時代は友人と飲食店でアルバイトを経験し、さまざまな人と関わる時間を過ごしました。

幼稚園の頃の先生に憧れ、保育士を志して短大へ進学。「続けられるか不安もありましたが、気づけば楽しく働き続けています」と絵幡さん。子どもたちと過ごす日々は、今も変わらず大切な時間です。結婚後、長女が小学1年生になるタイミングで夫の実家のある小美玉市へ。義母もMyuの公演を楽しみにしてくれていま

す。

Myuミュージカル「わたしとおぼけのケーキ屋さん」のキャスト募集の際に娘の渚さんが入団。「入ってみたら、知っている顔も多くて安心しました」。幅広い年代と自然につながれることが、Myuの魅力だと感じています。

Myuの仲間に誘われて、渚さんはジャズダンスを始めたり、舞台作品のプロデュースを学ぶ「みゅーじっくすた〜と」にも参加。中学生の先輩たちと同じ場で会議に参加し、自分の意見を伝える経験を重ねています。「娘の『やりたい』と一緒に関わること、私の世界も広がりました」。

保護者の皆さんとともに、Myuの舞台美術、小道具、衣裳製作に参加。一人ひとり違う衣裳を着る作品のため、苦労しながらも渚さんのおぼけの衣裳を共同作業で

作り上げました。「舞台照明が入った瞬間、感動しました。苦労した甲斐がありました」と振り返ります。

今秋に上演を予定しているMyu新作ミュージカル作品づくりのアイデア出しに参加した時のこと。子どもも大人も自由に意見が飛び交う空気を間近で感じながら、「Myuは、みんなで人を育てている場」だと感じるという絵幡さん。送迎や製作を通して、さまざまな人と会話が生まれ、子どもの成長と一緒に喜び合える環境に、「Myuの皆さんが娘の面倒を見てくれたり、私もMyuの子たちが成長していくのを見守っていて、演劇ファミリーという名前のとおりだなと感じます」。

絵幡さんにとって大きな喜びになっているMyuの活動。誰もが当事者になれる場の価値を改めて感じました。

(藤田佐知子)



みの〜れ住民劇団 演劇ファミリーMyu

え ばた ひろ み
絵幡 裕美さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ

No.221

みの〜れ住民劇団「演劇ファミリーMyu」で舞台美術、小道具、衣裳製作として参加。親子で舞台づくりに関わりながら活動が続いています。「Myuは、みんなで子どもを育てている場所」と話す、小美玉市竹原地区在住の絵幡裕美さんにお話を伺いました。